

策定年月	令和5年4月
見直し年月	令和〇年〇月

麦・大豆国産化プラン

産地名：津別地区

作成主体：津別町農業協同組合

1. 麦・大豆生産の現状と課題及び課題解決に向けた取組方針

1. 麦・大豆生産の現状と課題について

ロシアによるウクライナ侵攻等の世界情勢の変化により、国産麦・大豆の需要が高くなっている中、当組合では、安定した生産基盤の確立するため、小麦・甜菜・馬鈴薯・豆類の畑作4品を主体とした輪作を行っており、適正な輪作体系の保持はもとより、有機物肥料の投入など、基礎的な土づくりを中心としながら生産力の向上に努めている。

今後は需要の変化に対応すべく、小麦・大豆の増収を図りたいが、産地では農業者の高齢化による担い手の減少が顕著であり、1人あたりの経営面積が拡大する一方で、労働力不足が喫緊な課題となっている。更には近年、天候不順によっても農作業に遅れが生じており、適期作業を逃す農業者も少なくないため、作業の省力化は避けられない課題となっている。

天候不順の影響は、上記に加え、作物の生育にも多大な影響を与えており、昨今の日照不足や湿害等は、生育遅延や病害を引き起こす原因となっている。特に小麦については、町内でコムギ縞萎縮病の発生が確認されているため、被害軽減のためにも有機質資材や土壌改良資材等を用いた排水性向上対策や生育ステージに応じた最適な施肥の実施など、土づくりの方法を産地で改めて見直し、生産性の更なる向上に取り組む必要がある。

2. 麦生産の課題解決に向けた取組方針について

- ・土壌診断を実施し、作物・圃場の状況に応じた施肥及び排水性向上対策を実施する。
- ・網走農業改良普及センター指導の下、最適施肥に係る研修会「青空講習会」を実施することにより、栽培技術及び生産力の向上を図る。

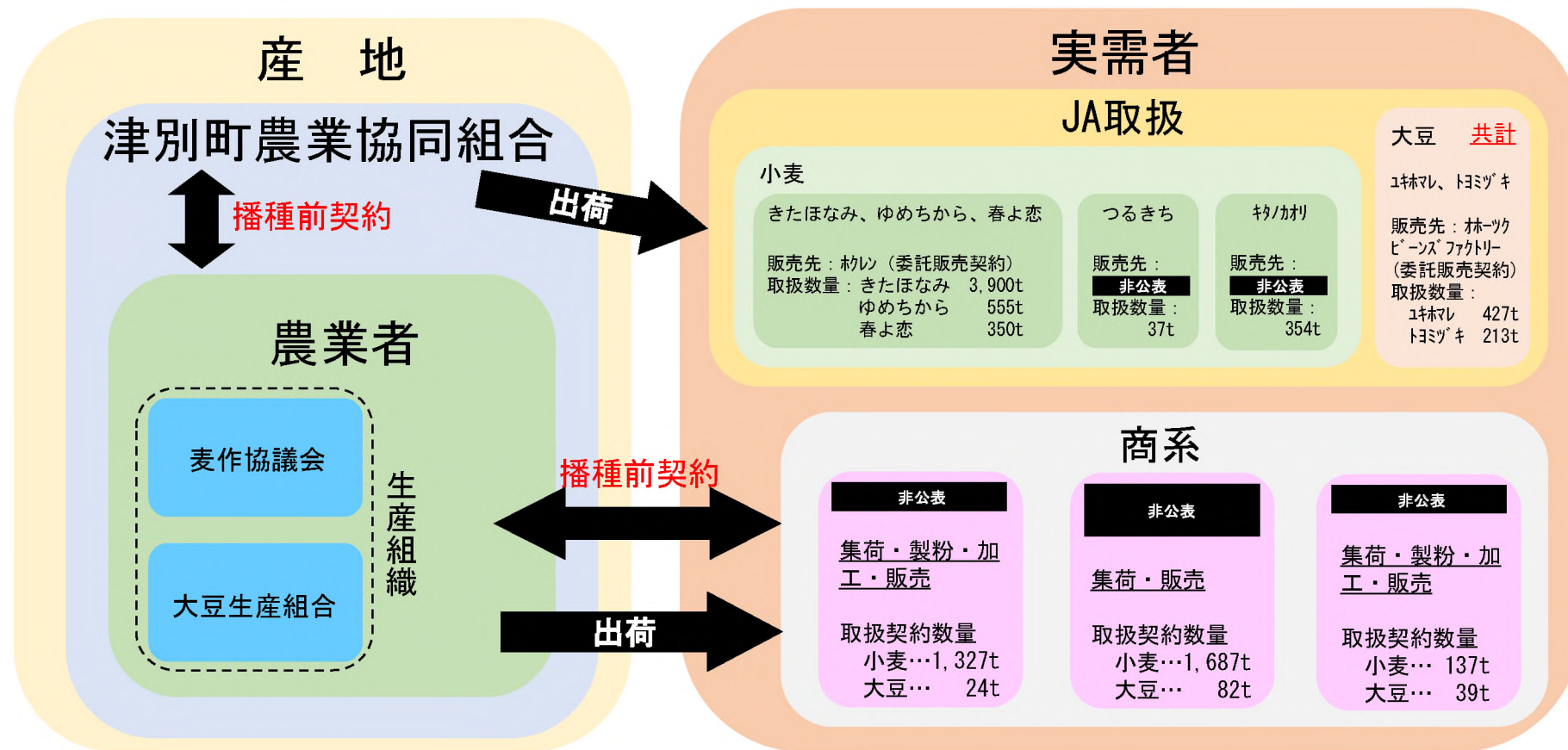
3. 大豆生産の課題解決に向けた取組方針について

- ・スマート農業技術を搭載した機械を導入し、農作業の省力化を図ることで、増反及び適期作業による生産性の向上を図る。
- ・土壌診断を実施し、作物・圃場の状況に応じた施肥及び排水性向上対策を実施する。
- ・網走農業改良普及センター指導の下、最適施肥に係る研修会「青空講習会」を実施することにより、栽培技術及び生産力の向上を図る。
- ・適正な輪作体系を維持するため、大豆の新規作付を推進する。

※ 麦・大豆生産における課題(湿害対策、適期播種、土づくり、連作障害対策等の必要性等)を具体的に記載すること。

※ 課題解決に向けて取り組む内容及び今後の生産拡大に向けた方針を具体的に記載すること。

2-①. 産地と実需者との連携方針



目標取扱数量

JA取扱 ◎小麦 … 5,444t ◎大豆 … 723t

※ 産地と実需者については具体的な名称を記載すること。

※ 麦の実需者は、麦を原料とした加工品等の製造を業とする者（製粉会社、製パン会社、製麺会社等）とする。

※ 大豆の実需者は、大豆を原料とした加工品等の製造を業とする者、大豆の販売を業とする者及びこれらの者が組織する法人その他の団体とする。

なお、販売を業とする者を実需者とする場合は、その者が販売する先（最終実需者）について、代表的な者の名称を記載すること。

※ 産地と実需者それぞれの国産麦・大豆取扱量の現状とおおむねの目標値を記載すること。

2-②. 産地と実需者との連携方針

○委託販売契約先の実需者について

産 地

実需者

小麦

津別町
農業協同組合



販売委託

ホクレン

大豆

津別町
農業協同組合

販売・調製委託

オホーツクビーンズ
ファクトリー

販売委託

ホクレン

非公表

※ 産地と実需者については具体的な名称を記載すること。

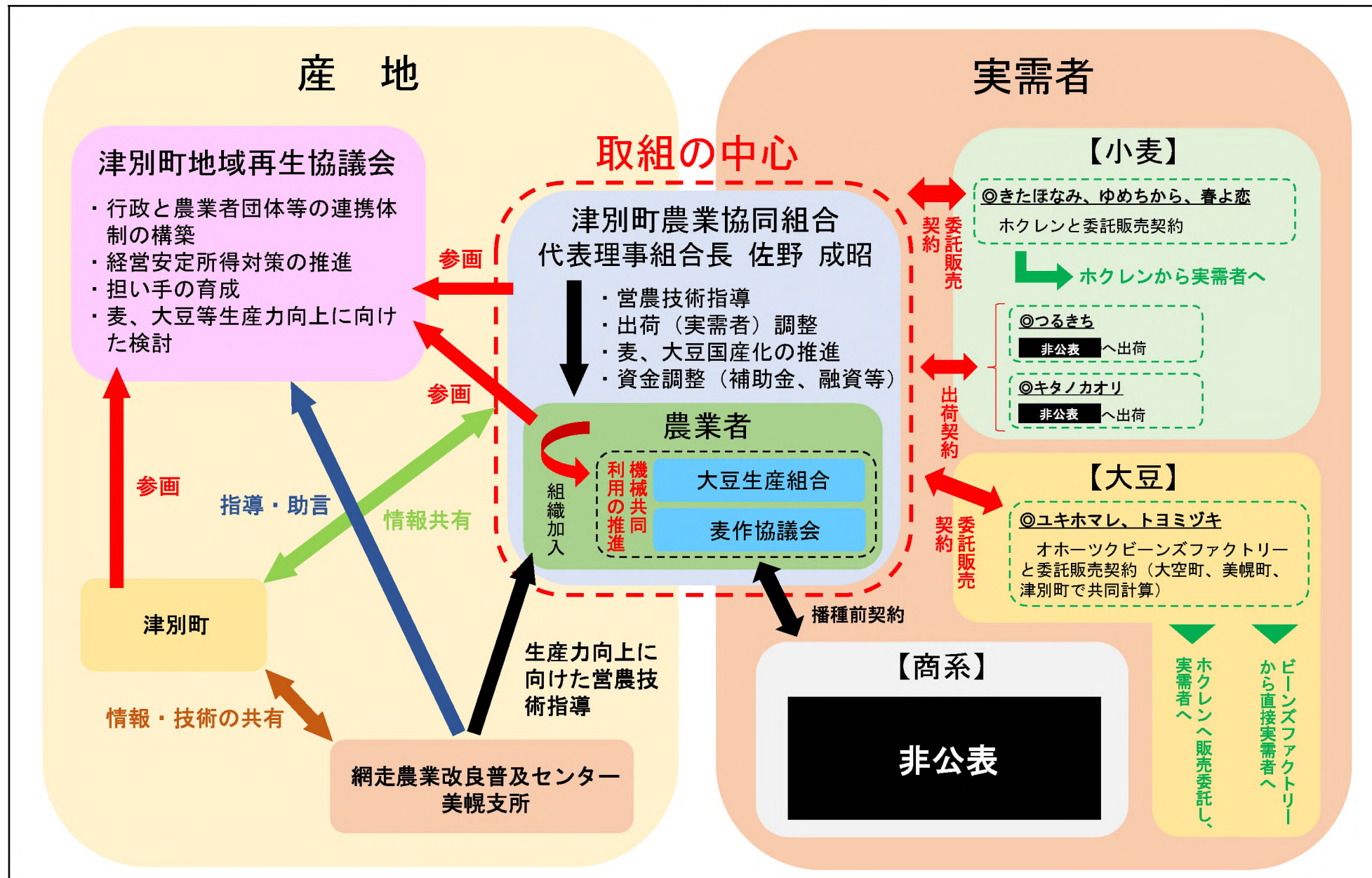
※ 麦の実需者は、麦を原料とした加工品等の製造を業とする者(製粉会社、製パン会社、製麺会社等)とする。

※ 大豆の実需者は、大豆を原料とした加工品等の製造を業とする者、大豆の販売を業とする者及びこれらの者が組織する法人その他の団体とする。

なお、販売を業とする者を実需者とする場合は、その者が販売する先(最終実需者)について、代表的な者の名称を記載すること。

※ 産地と実需者それぞれの国産麦・大豆取扱量の現状とおおむねの目標値を記載すること。

3. 麦・大豆の国産化に向けた推進体制及び各関係者の役割



※ 産地と実需者との連携について、図等を用いて明示すること。

※ 取組の中心となる農業者等を必ず位置付けること。